

① 月見
② 糸口
③ 水田

④ しんりん
⑤ ひばな

② ひっこし
② エ

③ ア
④ ア
⑤ ウ

⑥ ながめが いい

③ イ
② オ
③ ア
④ カ
⑤ エ
⑥ ウ

④ しぶき
② ア
③ ア

④ ア
④ 2
④ イ
④ 2
④ ウ
④ 1

配点	
①	各2点×5=10点
②~④	各5点×18=90点
<計>100点	

① 「月」が「目」に、「見」が「貝」にならないように気をつける。② 「糸口」は、ものごとはじまりや手がかりのこと。
③ 「水田」は、お米をつくる田んぼのこと。④ 「リ」が「い」に見えないように気をつける。⑤ あわてて「はなび」と答えないうようにしよう。

②

1 線①「けしきがかわっていた」につづく部分は、どのようなけしきになったのかの説明である。そのあとの「母さん」と「父さん」の会話で、どうして「けしきがかわったのか、事情がわかる。

2 ② は、「まどガラスが木の葉で」「おおわれ」るようす。「びつちり」で、すきまなくおおわれているようすをあらわしている。③ は、「家が」「大きな木に」「はさまったようになってい」るようす。「すっぽり」で、ちょうどいい具合にはさまっているようすをあらわしている。

3 「ひっこし」は、ふつう、ちがうところにたっているちがう家にうつることだが、このおかしな物語では、「家が」「木の上」にうつっていることがわかる。

4 とつぜん家が木の上に入ったので「ぼけっと」しているのである。イとウは「ぼけっとした顔」に合わない。エは「ひっこし」とかんけいがない。

5 ふつうのひっこしとちがって「かんたん」なようすをあらわした答えをえらぶ。家ごとうつるという「かんたん」さのたとえになっているものをえらぶ。

6 「家が木の上」だと、どうして「気分」が「いい」のかということだが、この段落のはじめに「木の上の家は、ながめがいい」と書かれており、これがこの段落の話題をあらわしているのである。

③ あえて小学2年生には難しい四字熟語も出題してあるが、まず知っているものの答えを決め、つぎに、のこった問題については、例文の内容と、上の二字との組み合わせから考えれば答えは決められる。知らないからできないと決めつけず、頭をつかって答えを出したい。

- ① 「一石二鳥」は、一つのことをして二つの利益を得ること。
- ② 「電光石火」は、きわめて短い時間のこと。また、非常にすばやいこと。
- ③ 「一朝一夕」は、わずかな時間のこと。「一朝一夕には……ない」のように、打ち消しの形で用いられることが多い。
- ④ 「三寒四温」は、三日ほど寒い日が続いたあとに、四日ほどあたたかい日が続くこと。
- ⑤ 「二束三文」は、値段がひどく安いこと。
- ⑥ 「花鳥風月」は、自然の美しい景色のこと。

④

1 線①のつぎの文に「飛沫のままでしたら……」とあり、さらにそのあとの文は「……しぶきの水分が……蒸発してすぐに飛沫核になってしまいます」とある。

2 ② も、④ も、すぐ前の内容に対して、そのあとの内容が、「こういときはちがいますよ」というつづき方になっている。

3 「エアロゾル」になるとどうして吸いこまれやすいのかということである。

4 アについて。「エアロゾルができやす」いのは、乾燥しているからである。イについて。「最適の温度になっている」のは、「気温」ではなく、「のどや鼻」である。ウについて。前半は「乾燥」の話、後半は「低温」の話になっていた。